

平成28年度保育園事業報告書

社会福祉法人 天 附 保 育 園

平成28年度 保育園事業報告書

天附保育園

はじめに

女性の社会進出等就労機会の増加に伴い、働く女性が増え、保育園に対する社会的期待は、益々大きくなっている。

当保育園では国が示した保育指針を踏まえつつ、地域性を考慮しながら、それぞれの家庭や地域社会との連携を密にして「保育計画」を策定し、それに沿った適切な保育が行えるよう、全職員が協力してその実施に当たった。

今年度に於ける主な事業については以下に示すものである。

1、家庭や地域社会との連携等について

- (1) 保育園と家庭との連携を密にするため「クラスだより」を毎月発行して保育に対する各家庭の理解と協力を求めるとともに、園児の登降園にともなう送迎等の際にも子どもの状況等を密接に連絡するように努めた。
- (2) 地域老人と園児との交流親和を図るため各種の行事を催した。(別紙参照)
- (3) 子どもの情操を高め、また季節感を演出するため、七夕祭り、餅つき、ひな祭り等の行事を行った。また、年長児については週1日の「お茶ごっこ」も取り入れ、年度末には、お茶会にて、御点前の披露をした。各行事に於いて家庭の協力が多数得られた。

2、保育活動の実践等について

それぞれの子どもの初期段階や発達段階に留意し、保育士の愛情と知性と技術とが個々の子どもに充分向けられるよう配慮しながら当保育園「保育計画」に沿って実施した。

なお、実践に当たっては、全ての活動領域において子どもが自主的、自発的に取り組めるような環境の設定に留意するとともに、音楽的豊かさや運動能力を発達助長する遊び、友達とのつながりを深める遊び、体験学習に基づいた保育をするように心がけた。年間に於ける行事の実践については、別紙参照とする。

3、給食について

子どもの発育に於ける重要な部分と位置づけ、栄養のバランス及び、季節感のある給食を目指し、必要な栄養量の確保、嗜好を生かした調理に配慮して実施した。

手作りおやつ週5回の実施と季節や行事にあわせたおやつ作りに励んだ。

衛生管理についても毎月の細菌検査を全職員が確実にを行うとともに手洗いの励行、マスクの着用に注意し、事故防止の配慮を常に行った。

4、職員研修について

毎月1回、計画的に園内研修を各クラス担当の持ち回りで実施すると共に、園外の各種研修会にも積極的に参加し、職員の資質向上に努めた。

5、保健・安全等その他

- (1) 嘱託医に依頼して、園児の健康診断を5月と11月に実施した。
6月にはぎょう虫検査、歯科検診を行ない、未受診の子どもについては、後日病院に連れて行き、全園児についての健康状態の把握を行った。食後には毎日歯を磨くことも励行した。
- (2) 嘱託医に依頼して、職員の健康診断を実施すると共に、職員の細菌検査を毎月実施して園児への健康安全等について配慮した。
- (3) 子供の発育・発達に合わせた安全指導の必要性を認識して交通安全の為の指導を実施し、毎月1回をその日と定めた。
- (4) 災害時に備えて、職員による組織づくりを行い、その役割分担について十分に認識し、子どもに対しては、その発達に応じて避難訓練の目的・意義を理解させ、訓練に参加させた。実施については別紙を参照。5月には消防署職員立ち合いのもと避難訓練を実施し、指導を受けた。保育士は消火訓練を受けた。

6、地域活動事業の実施について

老人福祉施設訪問等、世代間交流事業として園児と地域の老人とのふれ合いや交流を図り、園児の豊かな成長発達の醸成に努めた。なお、実施回数は6回、参加老人数は福祉施設入所の老人を含め 592名であった。

詳細については下記に示す。

9月	天附区敬老会	360名
10月	あんじん訪問	25名
1月	明照園訪問	120名
	悠ホーム訪問	30名
3月	正寿苑訪問	20名
	ひなまつり会（於・保育園）	18名

更に、現在一時保育や低学年の学童保育も実施しているので、下に実際の人数等を記録する。

○一時保育

28年度延人数 122名

○学童保育

28年度延人数 372名

・高校生 ワークキャンプ 0名

児 童 憲 章

児童は 人として尊ばれる
児童は 社会の一員として重んぜられる
児童は 良い環境の中で育てられる

- 1, すべての児童は、心身共に健やかに生まれ育てられ、その生活を保障される。
- 2, すべての児童は、家庭で正しい愛情と知識と技術をもって育てられ、家庭に恵まれない児童には、これにかわる環境が与えられる。

保 育 目 標

明るく 元気に 頑張る

1. 自分のことは、自分でする
1. 頑張る
1. 物を大切にする
1. じっくり考える
1. 友達と仲良くする
1. 工夫をする